

デジタルアーカイブ学会
第2回 研究大会

服飾分野における
機関横断型デジタルアーカイブ構築に向けて



BUNKA Fashion Research Institute

文化学園大学
和装文化研究所

金井 光代 ・ 中村 弥生
田中 直人 ・ 近藤 尚子



はじめに



「文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業(ファッションデザイン分野)」を受託 (平成27~29年度)

服飾分野における機関横断型デジタルアーカイブ構築を検討



2年半の活動の中で行ってきたこと

- ・資料所蔵機関のデジタルデータベースの現状調査・分析・課題の抽出
- ・各機関・有識者とのネットワーク作り
- ・服飾分野の機関横断型デジタルデータベースイメージの検討

対象資料について



いまだ定義なし ⇒ 大枠を暫定的に整理

- ・ 被服、過去に被服であったもの（装身具を含む）
- ・ 美しいもの（機能性のみでない）

一次資料														二次資料																									
着用物										非着用物				出版物			映像	その他																					
衣服										装身具 ※付帯的な物(身につけなくても困らない物)				裂	その他	制作工程				入れ物	プライベート	その他	出版物			映像	その他												
着物	襦袢	袴	羽織	足袋	帯	ドレス	スーツ	能装束	狂言装束	戦衣	その他	壺	簪	帯留	ヘアアクセサリ	バッグ	その他	裂	その他	縫製雑形	その他	見本帳	デザイン画	ファッションプレート	テキスタイル	技術書	注文書	畳紙	箱	契約等書類	手紙	その他	図録	論文	書籍	作業風景	インタビュー	ファッショショ	その他

我が国のデジタルアーカイブ政策



デジタルアーカイブに関する取り組みについて

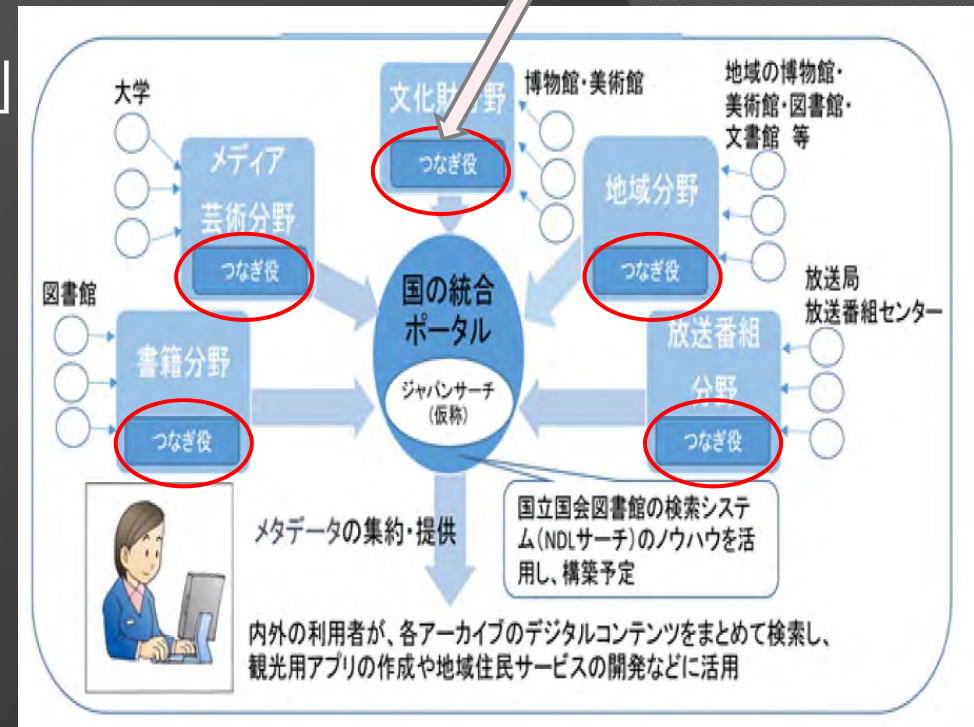
服飾分野の「つなぎ役」を担えるのではないか

「知的財産推進計画2016・2017」

①分野横断的な連携を可能とする基盤（統合ポータル）の構築を始めとする「アーカイブ間の連携・横断の促進」

②分野ごとのつなぎ役を中心とした「分野ごとの取組の促進」

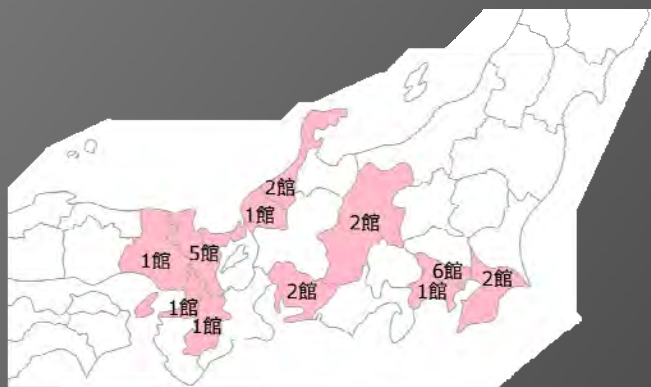
③保存や利活用に係る制度面での対応等の「アーカイブ利活用に向けた基盤整備」



引用：デジタルアーカイブに関する取り組みについて
内閣府 知的財産戦略推進事務局 平成29年9月
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/suisin/dai1/siryou1.pdf

調査の報告

収蔵機関への訪問調査



合計 24機関訪問

平成27年度 2機関

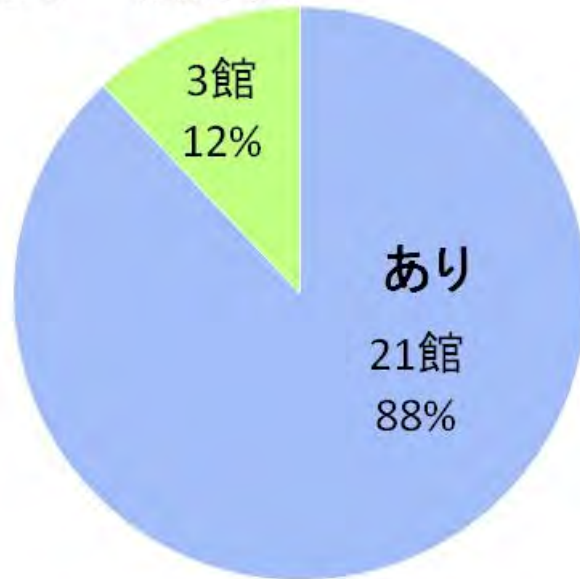
平成28年度 13機関

平成29年度 14機関

のべ 29機関 訪問

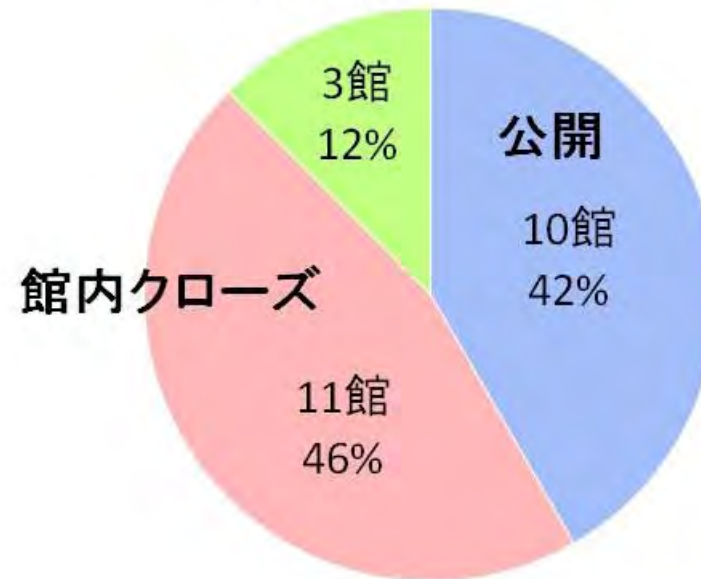
年度	訪問機関名	
H27	京都服飾文化研究財団 (KCI)	神戸ファッション美術館
	共立女子大学博物館	女子美術大学美術館
	和洋女子大学文化資料館	杉野学園衣裳博物館
	徳川美術館	J.フロント リテイリング史料館
H28	東京家政大学博物館	高島屋史料館
	奈良県立美術館	京都府京都文化博物館
	千總ギャラリー	京都国立博物館
	国立歴史民俗博物館	
H29	共立女子大学博物館	東京家政大学博物館
	J.フロント リテイリング史料館	丸紅株式会社
	武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室	須坂クラシック美術館
	田中本家博物館	金沢能楽美術館
	石川県立美術館	福井市立郷土歴史博物館
	文化学園大学服飾博物館	神戸ファッション美術館
	京都服飾文化研究財団 (KCI)	京都工芸繊維大学 美術工芸史料館

なし=紙台帳

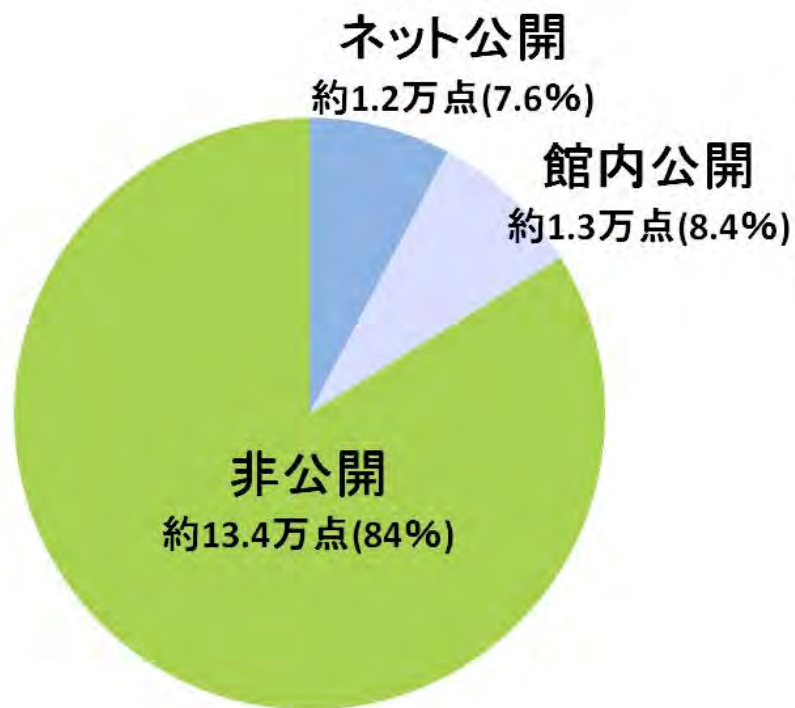


デジタルデータDBの有無
(24館)

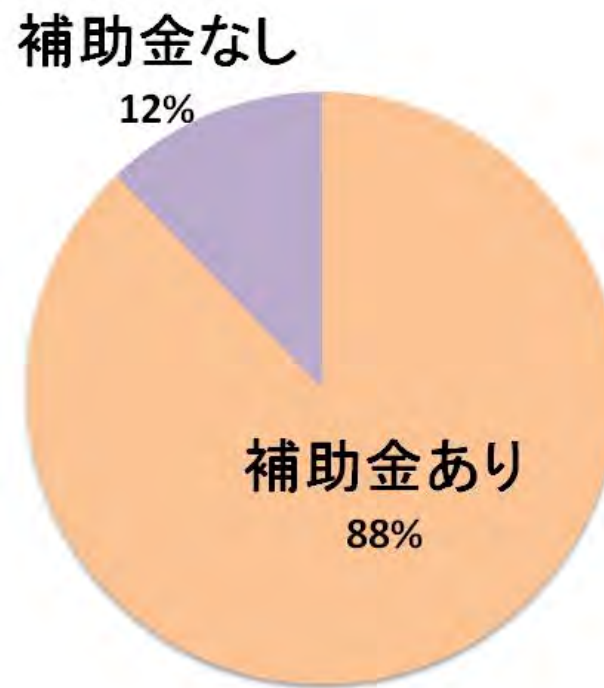
紙台帳



自館のDBの公開・非公開の別
(24館)



公開・非公開の資料数
(23館)



公開資料の補助金受給割合
(10館)

服飾資料のデータ公開はなぜ進まないのか？

ヒヤリング調査より

実は、多くの館は公開に前向きである 「館蔵品を広く知ってもらいたい」

データ公開を阻む3つの問題点

1. 構築・継続的公開のための人員・予算・ノウハウがない
2. 緊急性がなく、業務の中でも後回しになりがち
3. 収蔵館が関知しないところで画像やデータを利用される懸念

服飾資料のデータベース利用はなぜ進まないのか？

「他館のデータベースは使わない、使えない」という声



- ・名称や項目に統一基準がない
- ・掲載数が少ない(名品紹介的)

名称は・・・「着物」？
「小袖」？
「白綸子地梅紅葉模様小袖」？

「業務利便性向上のための紙台帳のデジタルデータ化」

つまり・・・項目などは紙台帳のものがそのまま採用されている

名称、項目などすべての情報が各館オリジナル＝同分野内でも統一基準はない！！

社会貢献

時代の流れ

広報活動

データベース公開へ

各館のデータベースは・・・あくまで「館内業務用データベース」

結果・・・内部利用者は使えるが、外部利用者は使いづらいデータベース

服飾資料のデータベース利用はなぜ進まないのか？

「他館のデータベースは使わない、使えない」という声



- ・名称や項目に統一基準がない
- ・掲載数が少ない(名品紹介的)

名称は・・・「着物」？
「小袖」？
「白綸子地梅紅葉模様小袖」？

利便性が高いデータベースとは？

「より多くの資料の中から簡便な手法で目的の資料を検索できる」



機関横断型データベース

- × 各館のデータベースを系統的に連結させるだけ
- 共通目的、共通ルールを掲げて再構築

「つなぎ役」= 拠点

再掲：我が国のデジタルアーカイブ政策



デジタルアーカイブに関する取り組みについて

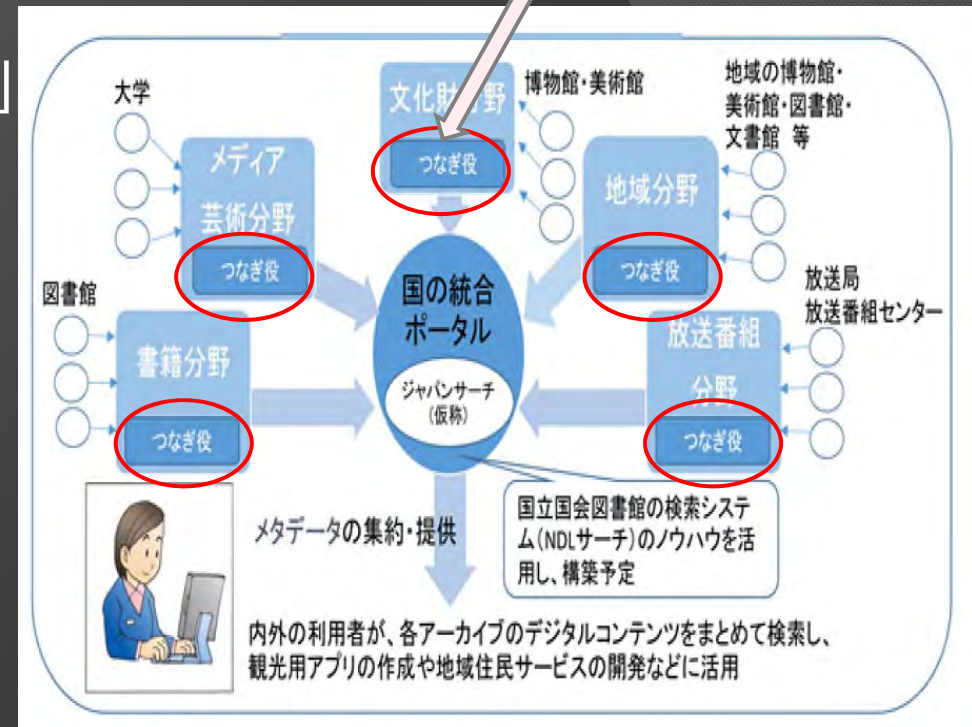
服飾分野の「つなぎ役」を担えるのではないか

「知的財産推進計画2016・2017」

①分野横断的な連携を可能とする基盤（統合ポータル）の構築を始めとする「アーカイブ間の連携・横断の促進」

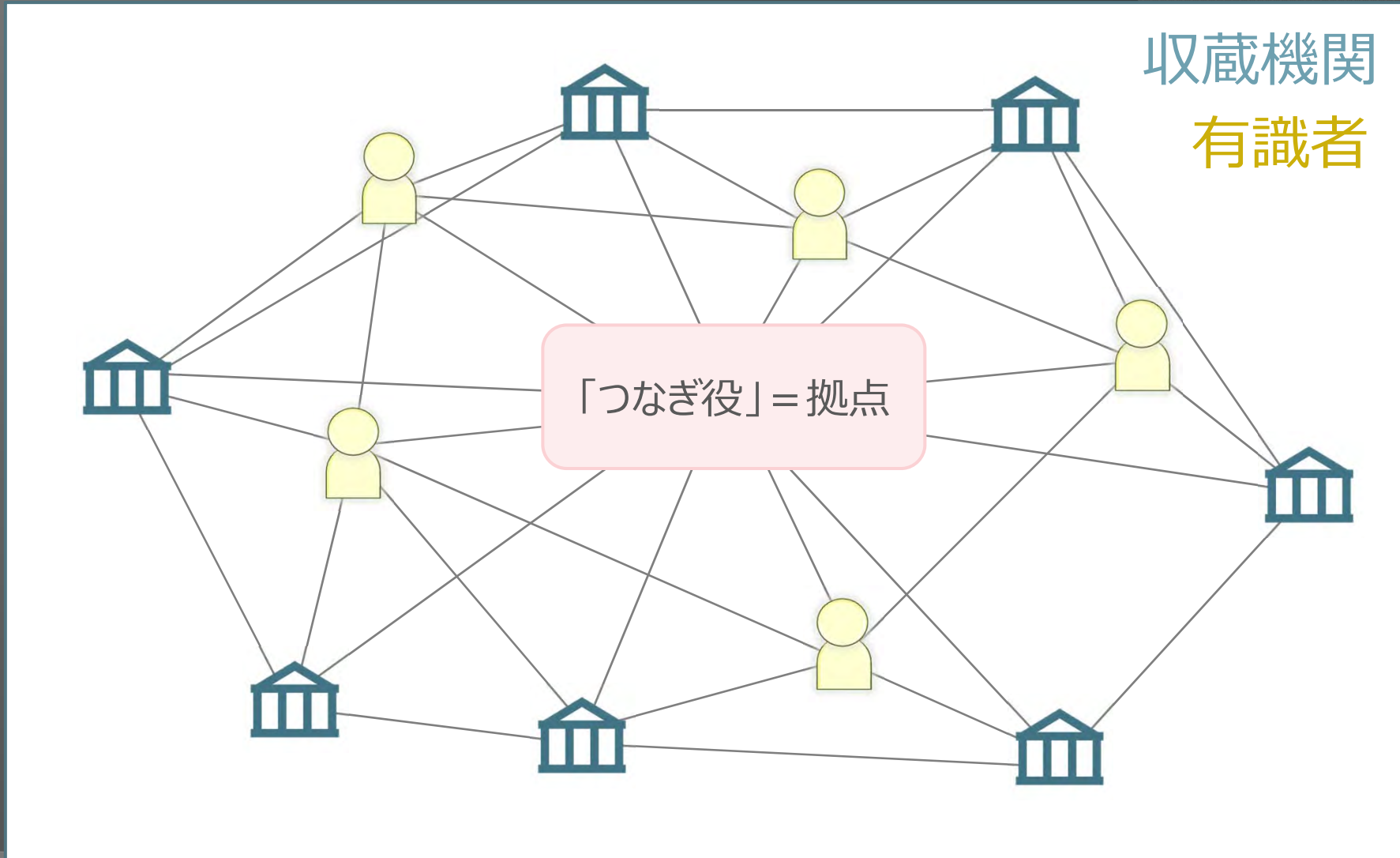
②分野ごとのつなぎ役を中心とした「分野ごとの取組の促進」

③保存や利活用に係る制度面での対応等の「アーカイブ利活用に向けた基盤整備」



引用：デジタルアーカイブに関する取り組みについて
内閣府 知的財産戦略推進事務局 平成29年9月
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/suisin/dai1/siryou1.pdf

服飾分野における機関横断型デジタルアーカイブ



利便性が高いデータベースとは？

「より多くの資料の中から簡便な手法で目的の資料を検索できる」



機関横断型データベース

- × データベースを系統的に連結させるだけ
- 共通目的、共通ルールを掲げて再構築

共通目的：利用者が使いやすいデータベース

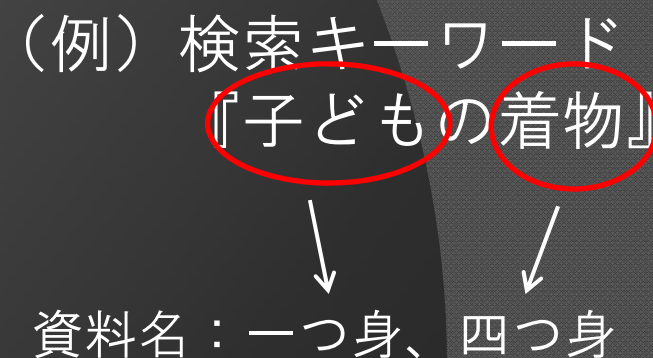
共通ルール：収集情報の設定、検索利便向上のための辞書作成

服飾資料における横断型データベース 共通ルール

① 収集情報の設定

必須項目	種別・分類 (衣服 / 装身具 / 裂 / その他) 名称
第1種 任意項目	収蔵館、収蔵者名 画像 収蔵資料URL 資料No.
第2種 任意項目	時代 国・地域 模様 材質 法量 制作者・制作社 技法 備考

② 辞書作成



おわりに



本事業は2年半の取り組みの中で以下の3点を中心に調査検討を行ってきた

- ① 服飾資料所蔵機関とのネットワーク構築
- ② 服飾資料のデータベースの現状把握と課題抽出
- ③ 服飾資料における機関横断型データベース構築に向けての構想

我々の活動は、緒についたばかりであり、今後実現に向けて歩を進めていきたいと考えている。

- ・拠点としての「つなぎ役」の強化
- ・さらなるネットワークの拡大
- ・各専門分野の有識者とのさらなる連携

ご清聴ありがとうございました